

平成 30 年 10 月 17 日

高等教育の将来像と制度改革への期待

独立行政法人国立高等専門学校機構

中央教育審議会大学分科会将来構想部会が中心となって進めている高等教育の将来像の提示と制度改革について、意見を申し上げる機会を与えていただき、感謝申し上げます。

基本的には、今回の「将来構想」の方向性には賛成であることを、まず申し上げます。

以下に、審議内容に関する期待と追加して明記いただきたい点について申し上げたいと思います。

1 今後の高等教育の将来像の提示について

これまでの高等教育の実績と SDGs、Society5.0・第 4 次産業革命、人生 100 年時代、グローバル化、地方創生等の課題を踏まえ、我が国の社会と経済を支え、世界が直面する課題を解決できる人「財」を育成する方向性がこの将来構想に明確に記載されている点が、まず重要と考えます。私ども高専機構が実施している教育では、その成果としてアウトプットではなく、アウトカムズを重視しています。すなわち社会を発展させ、人を幸せにするためのお医者さんとしての役割を果たす（ソーシャルドクターと言っています）人財を育成することを目指しています。これはこの将来構想にある教育の方向性と合致しています。

また、高等教育を実施する機関は、初等中等教育からの接続性を重視し、学びの場（社会に出るための準備と再出発、そして、意識改革とスキルアップ）として再構築する点についても将来構想の中で提言されていることも重要と考えます。

さらに、社会が必要とする高等教育機関の提示・社会の将来への投資（教養と基礎研究の充実）という観点で、社会に教育投資の効果を理解いただくことが、日本の高等教育の将来にとって極めて重要なことと考えます。

以上の方向性については、これまで国立高専が目指してきた教育と軌を一にするものと考えており、国立高専は今後とも育成する人財の高度化と強化により、社会から必要とされる教育機関として活動していきたいと考えます。

2 追加で明記していただきたい内容

次に述べる 4 点について、言及いただければと思います。

(1) 人間力の向上とキャリア形成

高等教育の使命が“知の拠点”あることは十分に理解していますが、複雑化する社会において、知だけではなく、生き抜く力、起業力、自己管理力にも焦点を当て、学修者自身

が心身とも健康でなければ、社会に貢献することができません。

(2) 教育方法

近年、教育の効率化がややもすれば重視されすぎていたきらいもあります。多様性を育むためには、地域社会と協働し、学修者が知識を熟成させ活用できるようになるための機会と時間を確保する必要があります。また、高等教育機関が社会全般に対する学びの場であるために、教育の環境整備への国や社会からの積極的な投資、支援の重要性についても、我が国の方針として確立していただけますようお願い致します。

(3) 教育の評価

入試改革でも検討されていますが、偏差値や知識だけによる教育評価を改善する必要があると考えます。インプット・アウトプットから学修者のアウトカムズへの転換、そして、評価方法の検討も必要だと考えます。

(4) 国の基盤としての教育内容に加えるべき事項

高等教育機関が生み出す知を保護し活用できるための知財教育の充実、及び我が国の優れた教育内容や教育についての考え方を、国際社会の多様性を踏まえた上で、国際的にも標準化する（世界の教育を先導する）ことが重要と考えています。

そのために、物事をまとめ上げるマネジメント能力やリーダーシップ能力の育成が不可欠であると考えます。今後、AIやIoT等の先端技術を活かし活用するためにも、知財教育やリーダー育成に資する教育が必須であることを明記していただきたいと考えます。